

# 牛伏川林相転換事業について

## 林相転換事業実施の背景

江戸時代後期から牛伏川上流域が著しく荒廃し、土砂災害が多発。明治期から、国(当時:内務省)及び県が砂防事業を実施。石材による砂防施設整備と併せて山腹工「植栽」を実施。植栽木は、アカマツやヒメヤシブチのほか、一部にニセアカシア(ハリエンジュ)であった。

ニセアカシアは、流域全体に分布域を拡大するとともに下流域にも生域を拡大。在来種の発芽・育成を阻害。昭和～平成期には、ニセアカシア林の老齢期を迎え、流域内で倒木が増加。

明治期の牛伏川流域禿山の状況(1909)

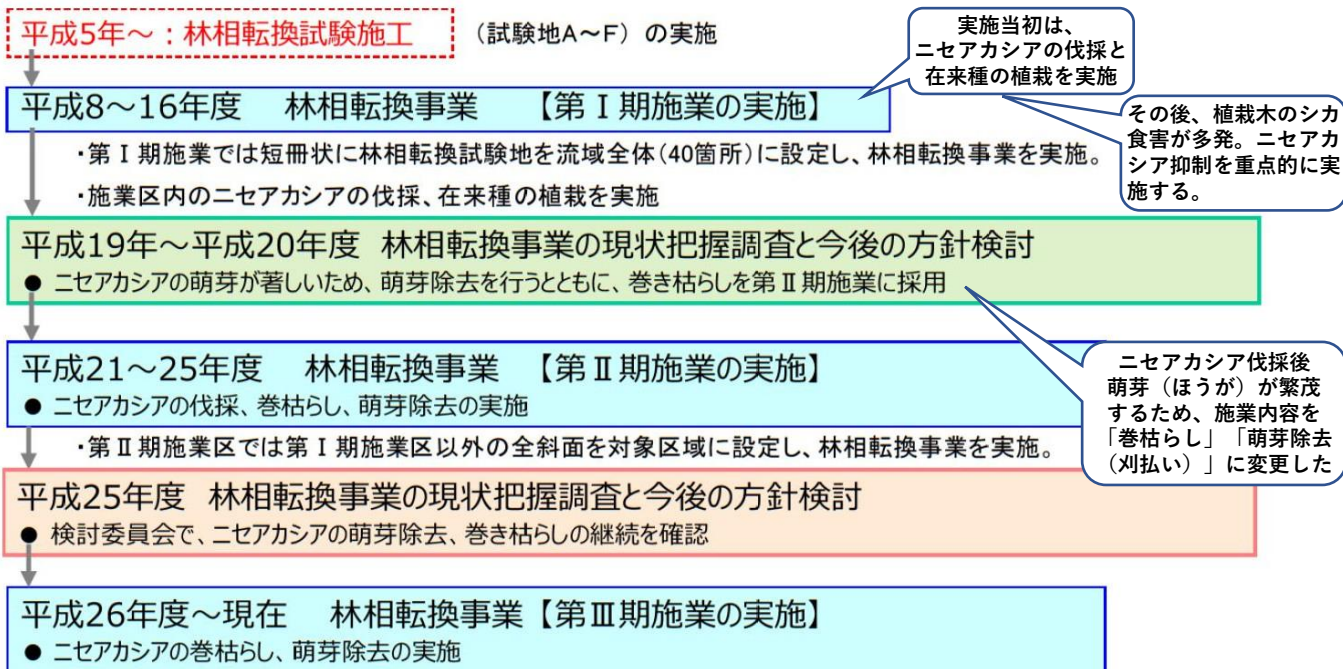


ニセアカシアの繁殖の抑制し、コナラ等の在来種による防災機能の高い森林植生に転換する

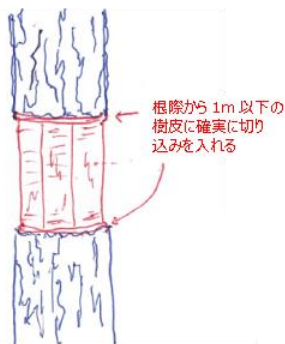
## 牛伏川林相転換事業に着手

平成5年度から、流域エリアを6分割し試験施工を実施。平成8年度から砂防事業により本格的に林相転換事業に着手した。

## 林相転換事業の経緯



ニセアカシアの巻き枯らし

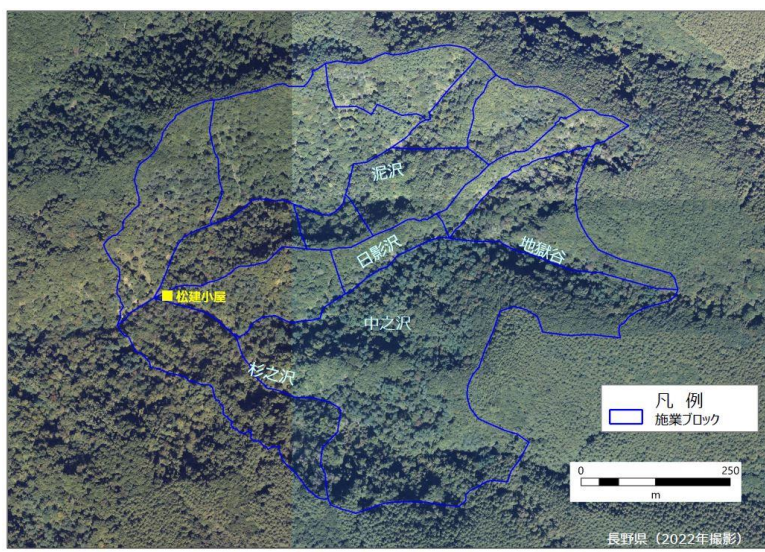


繁茂するニセアカシアの萌芽

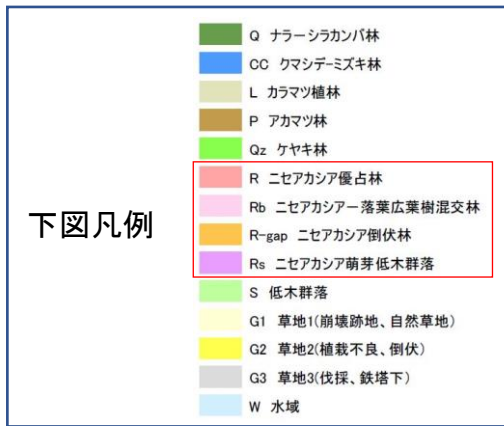


# 林相転換事業の効果

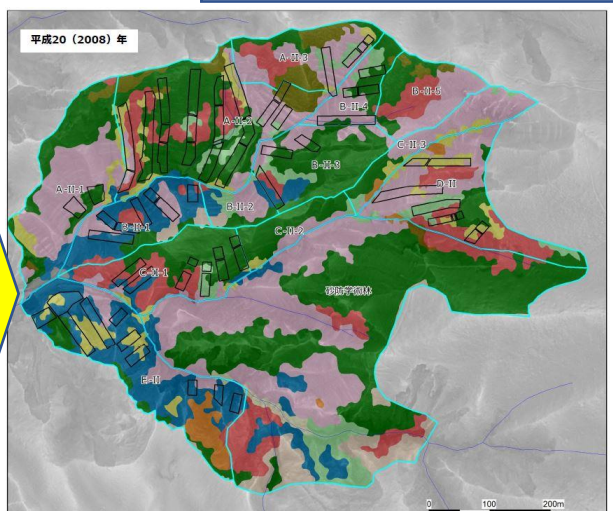
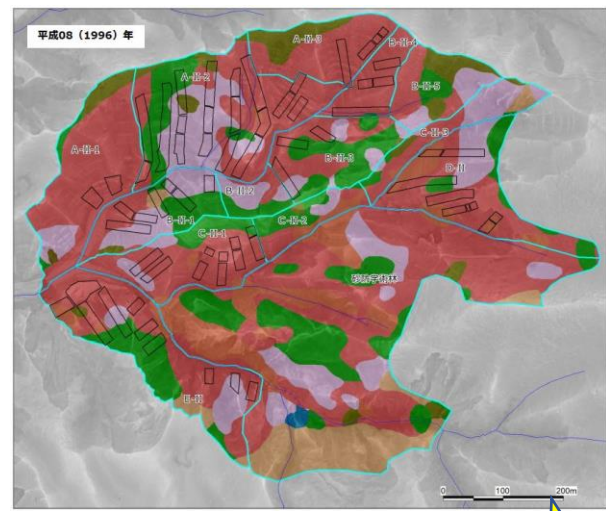
## 牛伏川流域での林相転換施業範囲



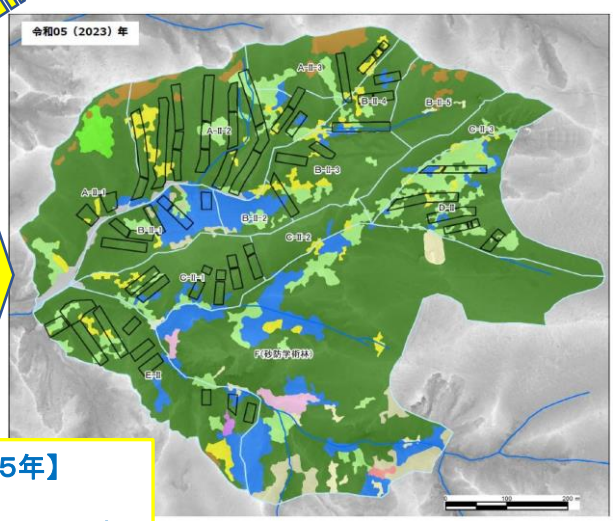
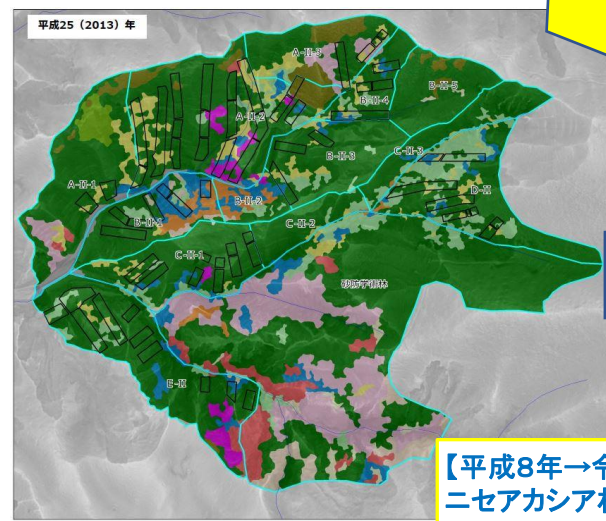
林相転換施業範囲  
施業総面積 A=48.4ha



## 牛伏川流域の相観植生図(H8、H20、H25、R5)



ニセアカシア林面積 約33ha



【平成8年→令和5年】  
ニセアカシア林  
A≒33ha→0.4haまで減少

ニセアカシア林面積 約0.4ha

## 林相転換事業検討会の実施

平成20年度から5年ごと流域状況調査を実施。学識者、地元、関係機関からなる「牛伏川林相転換事業に関する検討会」により次期5か年の施業方法等について検討しており令和5年度に第Ⅲ期前期施業期間完了となるため、本年12月に検討会を開催しました。

# 牛伏川林相転換事業に関する検討会

## 検討会の目的

牛伏川の林相転換は、平成5年度から試験施工に着手。平成8年度本格施工として実施。当初の施業内容は「ニセアカシアの伐採」「苗木の植栽」を段階的に実施。施業と同時に施業エリアの状況調査【苗木の成長（I期施業のみ）、枯損調査、ニセアカシアの状況調査、土壌調査等】を実施。流域状況の確認と今後の方針検討を目的に懇談会を開催。

その後、『検討会』として5年ごとに開催し、その都度「牛伏川に関するニセアカシア林の林相転換ガイドライン」を改訂し次期施業内容等の方針策定を行っております。

現在「第Ⅲ期」施業期間として主に「萌芽除去」や「巻き枯らし」の施業実施中。

## 検討会開催までの作業フロー

### 事業（施業）実施状況の収集・整理

#### 現地調査

- 1) 課題箇所の調査
- 2) 巻き枯らし状況調査
- 3) 調査状況とりまとめ

#### 流域の植生変遷の確認

(相観植生図の作成)

- 1) 写真判読（航空写真）
- 2) 現地調査結果反映
- 3) 相観植生図作成

#### 検討会のメンバー

学識者、地域住民、  
環境保全ボランティア等有志  
県、市等の行政職員  
計15名

検討委員の意見を踏まえ  
ガイドラインの改訂作業

#### 検討会の開催

- 1) 現地視察
- 2) 検討会開催

次期施業内容等明記した  
ガイドラインの改訂

## 令和5年度 検討会実施状況

検討委員による現地調査

2023年9月21日：現地



牛伏川林相転換事業に関する検討会

2023年12月19日  
県松本合同庁舎

